

新



浜

市



新居浜市 地球温暖化対策地域計画

みんなで取り組もう ストップ・温暖化



地球温暖化の原因である温室効果ガスの
排出抑制を効果的に進めるためには、
地域ごとに異なる特性や課題を踏まえた、
主体的な発想に基づく取組が重要です。
そこで新居浜市では、市民や事業者のみなさんと
ともに地球温暖化の防止に取り組むための指針として
この計画をつくりました。
新居浜市は2020年度までに二酸化炭素を
2009年度に比べて25%削減することを目指します。

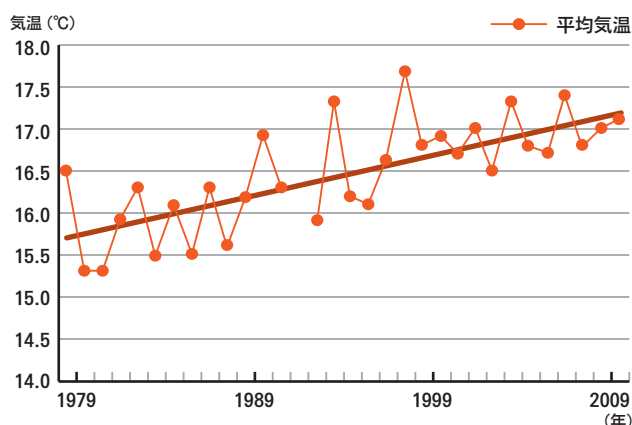
新居浜市が地球温暖化対策に取り組む背景や意義

地球温暖化による影響の顕在化

- 地球規模で見ると、地球温暖化（気候変動）が着実に進行しています。
- 市内でも年平均気温が緩やかに上昇傾向です。夏日や真夏日、猛暑日、熱帯夜の日数も増加傾向です。

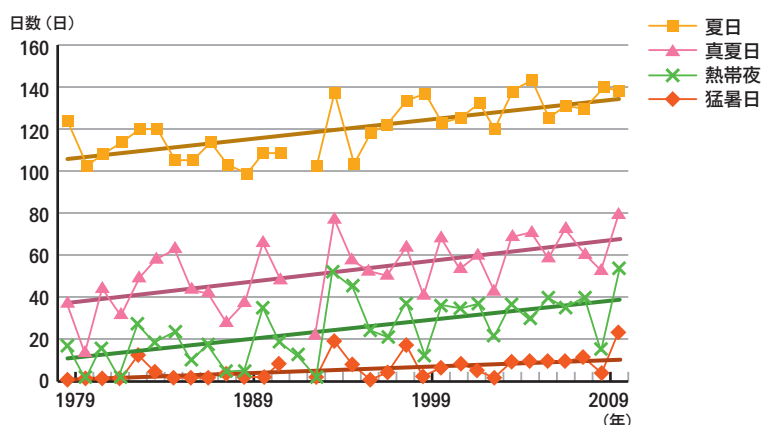
長期的に見ると、平均気温は徐々に上昇中

■ 年平均気温の推移（気象庁アメダス新居浜観測所）



夏はより暑く、冬は厳しい冷え込みが少なくなる傾向

■ 特異日の日数の推移（気象庁アメダス新居浜観測所）



地域から取り組む地球温暖化対策の重要性

- わが国では、民生部門や運輸部門からの温室効果ガス排出量が増加傾向にあります。
地域の特性に応じた取組を推進する地方自治体の果たす役割が、地球温暖化対策において重要です。
- 新居浜市においても、増加傾向が顕著な民生部門からの排出抑制が急務となっています。



新居浜市の市街地

わが国の温暖化対策の新たな潮流への対応

- 平成23年3月の東日本大震災や福島第一原子力発電所事故を契機として、再生可能エネルギーに着目した持続可能で環境負荷の少ないエネルギーシステムへの転換が進みつつあります。
- 地域では、再生可能エネルギーを活用した地産地消型、自立・分散型エネルギーシステムへの転換が必要とされています。
- 家庭や事業所における省エネ意識も徐々に普及・浸透してきています。LEDや燃料電池などの省エネ・高効率機器の普及拡大の契機になっています。

市の特徴や強みを活かした地球温暖化対策の推進

- 地球温暖化問題へ実効的に対応するため、近年、中長期的な視点でのまちづくりと一体となった温暖化対策、「低炭素まちづくり」が重要視されています。
- 新居浜市においても、恵まれた日照条件を活かした太陽エネルギーの導入拡大や自転車の利用環境の整備など、市の特徴や強みを活かした環境負荷の少ない持続可能なまちづくりが求められています。

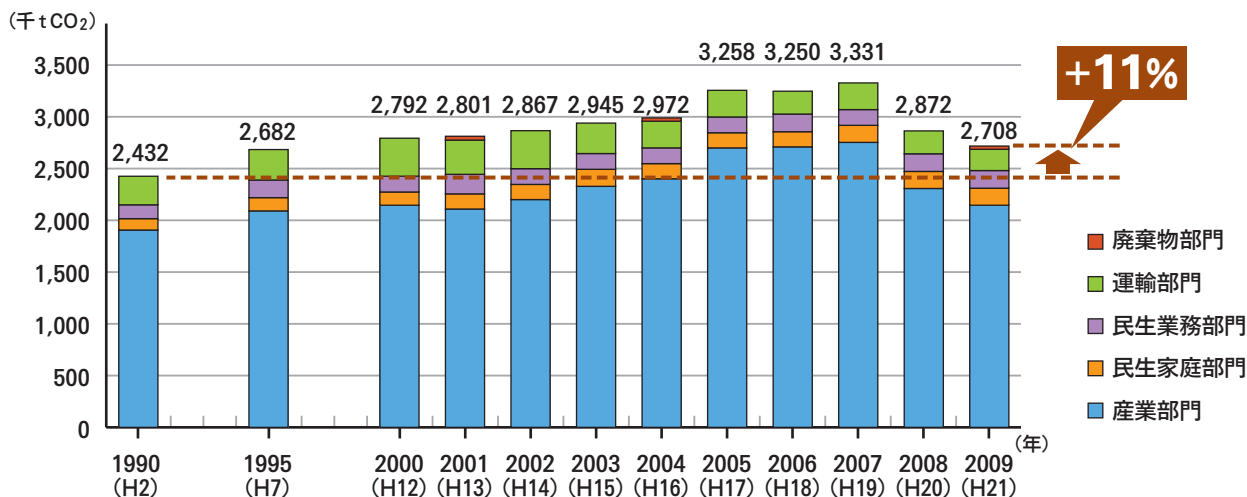


住友鉄道跡地自転車歩行者専用道路

新居浜市から排出される温室効果ガスの状況

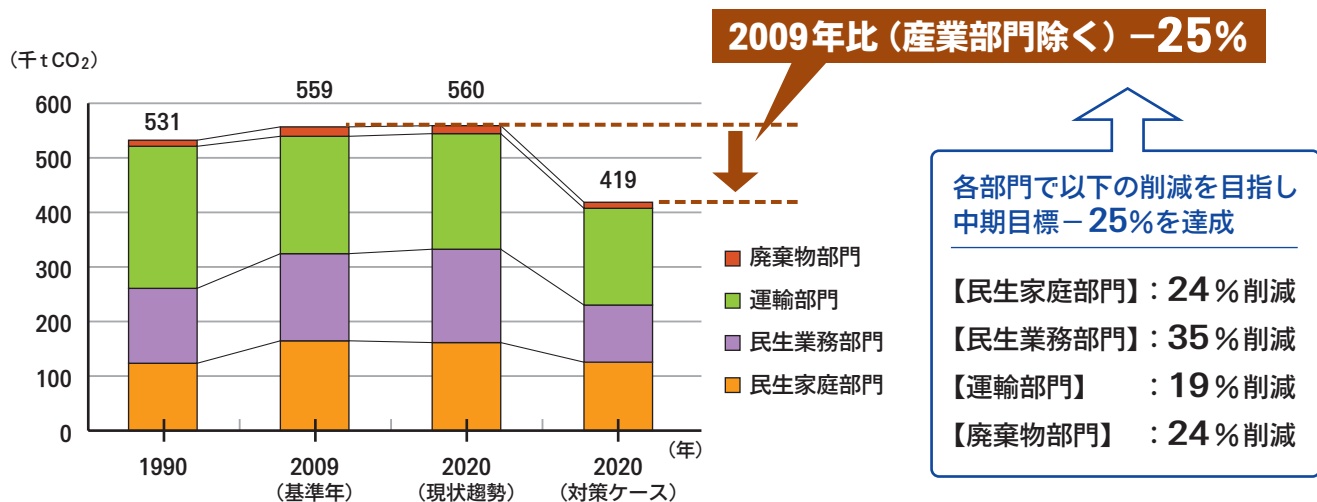
- 1990年（平成2年）に比べ、2009年（平成21年）の市域からの二酸化炭素排出量は約11%増加しています。
- 新居浜市にはエネルギーを比較的多く使う化学工業や非鉄金属製造業が集積しており、二酸化炭素排出量のうち産業部門からの排出量が全体の約79%と多くを占めています。
- 民生部門（家庭・業務）の二酸化炭素排出量増加が顕著であり、今後の有効な対策が必要です。

■ 新居浜市の部門別二酸化炭素排出量の推移



二酸化炭素排出量削減目標

- 二酸化炭素排出量の削減目標は、市民生活や地域活動に最も身近な基礎自治体としての役割を踏まえ、民生部門（家庭・業務）と運輸部門（自動車など）、廃棄物部門を対象に設定しました。
- 産業部門は、国や都道府県等の様々な規制のもと、企業全体で温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。このような背景から、産業部門については、本市が定める削減目標の対象とはせず、エネルギー使用の合理化に関する法律に基づくエネルギー消費原単位の改善により温室効果ガスの削減に取り組むこととします。



※ 二酸化炭素排出量の削減目標には、産業部門からの排出量は含まれません。

地球温暖化防止に向けた新居浜市の取組

基本方針

新居浜市が特に重点的に取り組む施策

管理指標

心
行動・意識
(一人ひとりの行動様式や価値観の低炭素化)

基本方針1
環境負荷の少ない
ライフスタイルへの転換

重点テーマ1 CO₂の見える化の推進
① 新居浜版環境家計簿の普及促進
② 家庭向け省エネ診断の取組促進

CO₂排出状況・エネルギー使用状況の見える化を通じて、「気づき」から「行動」へ結びつけ、家庭における継続的な取組促進を図ります。

● 環境家計簿の取組世帯数
現況 (H21年度) 264世帯 → 目標 (H32年度) **920世帯**



基本方針2
環境と事業の両立

重点テーマ2 中小事業者の取組促進
① 無料省エネ診断サービスの実施
② にいはまグリーンショップ・オフィス認定制度の取組促進

中小事業者が抱える資金面や専門の人材確保、情報収集面等の課題克服に向けた支援施策を総合的に実施して、中小事業者の主体的で意欲的な取組を促し、事業活動と両立した温室効果ガス排出抑制を図ります。

● にいはまグリーンショップ・オフィス認定制度 登録数
現況 (H21年度) 33店舗 → 目標 (H32年度) **55店舗**



基本方針3
自分で考え行動できる
人の育成

重点テーマ3 環境と調和した産業の創出・育成
① 低炭素型製品開発や技術開発に対する助成
② 環境・エネルギー産業の立地支援
③ 再生可能エネルギービジネスの事業化支援

環境・エネルギー分野の産業立地を誘導したり、新たなビジネスの事業化支援などを通じて、環境保全と両立した産業のまちをめざします。

● 新製品開発事業補助件数
現況 (H21年度) 4件 → 目標 (H32年度) **5件**



基本方針4
効率的なエネルギー
利用の促進

重点テーマ4 地域における環境学習の取組促進
① 環境学習講座の開催
② スクールエコ活動の推進

将来を担う子ども達への環境学習に取り組み、環境意識の高い大人が多いまちをめざします。また、地域における環境学習の機会を増やし、自分で考え行動できる人の育成を図ります。

● スクールエコ認定制度登録学校数
現況 (H21年度) 3校 → 目標 (H32年度) **27校**



技
技術
(温暖化防止に効果のある技術の開発・普及)

基本方針5
再生可能エネルギーの
利活用促進

重点テーマ5 省エネルギー機器や高効率機器の普及促進
① 防犯灯のLED化促進
② 公共施設における省エネ機器の導入推進
③ 省エネ型施設・設備の導入支援

市内各所に設置されている防犯灯や公共施設に導入している照明を、従来の水銀ランプや蛍光灯から、維持管理が容易で長寿命・省エネといった特性を持つLED照明へ転換し、中長期的なエネルギー消費の抑制を図ります。

● 公共施設のLED導入箇所数
現況 (H21年度) 0箇所 → 目標 (H32年度) **33箇所**



基本方針6
人や環境にやさしい
交通の実現

重点テーマ6 太陽エネルギーの利活用促進
① 市有施設への率先導入
② 初期費用の負担を軽減する制度・仕組みの検討

固定価格買取制度などの政策的支援や、本市の恵まれた日照条件などを活かすとともに、本市に適した持続可能な導入の仕組みの検討等を通じて、太陽光発電の普及拡大に取り組めます。

● 住宅用太陽光発電補助戸数(累計)
現況 (H21年度) 110戸 → 目標 (H32年度) **1,320戸**



体
社会基盤・仕組み
(社会基盤、社会の仕組みの低炭素化)

基本方針7
環境と調和のとれた
森林・農地の保全推進

重点テーマ7 公共交通の利便性向上
① バスの利便性向上
② 新たな公共交通の導入
③ 高齢ドライバーの公共交通への転換促進

“公共交通空白地域”を解消し、全ての人々が安全で快適に移動できる交通環境を実現するため、路線バスのバリアフリー化やコミュニティバス・デマンドタクシーといった小型の公共交通の導入を検討します。

● 公共交通(バス・デマンドタクシー)路線エリアの維持・確保数
現況 (H21年度) 12路線・エリア → 目標 (H32年度) **14路線・エリア**



重点テーマ8 自転車利用環境の整備促進
① 自転車マイレージの取組促進
② 安全で快適な徒歩・自転車環境の創出
③ 自転車の安全利用の促進

ハード施策(走行空間、駐輪スペース等の整備)とソフト施策(自転車利用の仕組み、安全教育等)のバランスをとりながら自転車利用環境の整備を促進し、自転車のまち新居浜の再生を目指します。

● 自転車マイレージ参加者数(延べ)
現況 (H21年度) 65名 → 目標 (H32年度) **285名**



重点テーマ9 市街地の熱環境改善
① 農地の保全

市街地における貴重な熱吸収源として農地が果たす役割を見つめ直し、農地の緑地確保など、農業振興や地域振興、環境保全などの意義と合わせ、農地保全の施策を総合的に推進します。

● 作付面積(米)
現況 (H21年度) 427ha → 目標 (H32年度) **433ha**



私たちにできること（市民の主な取組例）

地域で取り組む温暖化防止活動に参加しよう

一人ひとりの力を合わせよう

新居浜市では、にはま環境学習講座や水源の森づくりなどを行っています。一緒に取組に参加しましょう。

「にはま環境学習講座」とは



地元で活動している市民とともに、環境問題や保全活動の取組について学んだり、課外学習を通して自然とのふれあいを体験します。



「水源の森づくり」とは



森林を健全な状態に維持する方法を理解し管理していくことを目指した、森づくり体験です。

エコドライブやマイバッグの持参などにも取り組ましましょう。



省エネ型の機器や製品を選択しよう

技術の進歩により、年々エネルギー消費効率が良く省エネ性能が優れた家電が出ています。

環境にも家計にもやさしい製品の選択を心がけましょう。



省エネナビ



電気自動車（超小型モビリティ）

環境負荷の少ないライフスタイルを進めよう

新居浜版環境家計簿を利用してみよう

家庭で使用しているエネルギーの見える化や省エネ活動を行いましょう。

項目	電気		プロパンガス	水道	灯油	合計	備考
	CO ₂ 排出係数	単価	単価	単価	単価		
4月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		
5月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		
6月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		
7月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		
8月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		
9月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		
10月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		
11月	使用量	kwh	m ³	m ³	l		
	金額	円	円	円	円		

3Rに取り組もう

Reduce : ごみを出さないようにしましょう

Reuse : 使えるものは何度も使いましょう

Recycle : 再び資源として利用しましょう

環境にやさしい移動手段を選ぼう

自転車を利用して自転車マイレージの取組に参加したり、公共交通機関を利用したりしましょう。

それぞれのライフスタイルにあった無理なく実施できる取組から始めてみましょう。

「自転車マイレージ」とは

自動車の代わりに自転車を利用し、走った距離・時間を記録することで、CO₂の削減量を把握する取組のことです。



再生可能エネルギーを利用しよう

太陽光発電や太陽熱利用などの太陽エネルギーをはじめ、化石燃料を使用しない再生可能エネルギーの利用を検討してみましょう。



太陽光発電設備（慈光園）



水車実験の様子（あかがね工業博）

住宅や建物のエコ化を進めよう

グリーンカーテンを設置しよう

グリーンカーテンは温度を下げるほか、見た目にも涼しく感じさせる効果があります。



みどりのカーテン（新居浜市本庁舎）



みどりのカーテン取付作業

また、断熱材やエコガラスを住宅へ取り入れて、冷暖房などの効率を上げる工夫をしましょう。

CO₂削減につながる取組に参加・協力しよう

地産地消に取り組もう

新居浜市地産地消協力店を利用したり、地元で生産された製品や旬の食材を選ぶなど、地産地消の商品を選びましょう。

輸送等に要するエネルギー削減に貢献することができます。



「新居浜市地産地消協力店」とは

新居浜市地産地消協力店認定要綱に基づき、新居浜市産の農畜産物や水産物、それらを使用した加工品を取り扱っているお店※を認定したものです。



※ 直売所や量販店、小売店、料理飲食店、宿泊施設、観光施設、食品加工製造業者など



天ぷら油のリサイクルに協力しよう

新居浜市では調理の際に使用した天ぷら油などの廃食油からバイオディーゼル燃料を精製するリサイクルを行っています。

回収所へ持って行く、回収BOXの設置を受け入れるなど、活動に協力しましょう。

新居浜市が目指す将来の姿 ～低炭素なまち～

近年、低炭素化技術の高度化や、低炭素で環境に配慮した社会経済システムの確立が進んでいます。

このような社会の動きを背景に、新居浜市では省エネ活動の促進や再生可能エネルギーの導入などを通して、文化的で利便性の高い現在の日常生活や、活発な都市活動・産業活動を維持しながら、持続可能な方法で温室効果ガス排出を抑制した“低炭素なまち”の実現を目指します。

無理のない自然な エコライフの実現

市民・事業者・市が一体となって、環境保全に取り組む風土があります。



みんなが自ら環境に配慮して行動し、地産地消の考え方も広く普及するなど、無理がなく充実したエコライフの実現を目指します。

自転車利用の定着

かつては、たくさんの自転車が行きかう“自転車のまち”と呼ばれていました。



安全な自転車利用に向けた走行空間の快適化に取り組むなど、自転車利用が定着した、新しい自転車のまちを目指します。

利便性の高い公共交通

本市では公共交通空白地域の居住人口が約5割を占めており、自動車を運転できない高齢者が増加する中、公共交通整備が課題になっています。



公共交通をネットワーク化し、安全で利便性が高く、誰もが安心して利用できる公共交通空間の形成を目指します。

環境と調和した 産業の集積

臨海部を中心に、競争力のある産業が集積しています。



これらの企業は努力と工夫により従来の産業力の維持・強化を図るとともに、環境負荷の低減にも努めています。

製品やサービスの低炭素化や環境負荷の少ない輸送形態への転換を進め、さらに環境と調和した産業を目指します。

エネルギーの地産地消

日照時間が長い瀬戸内海気候に属しており、“恵まれた太陽エネルギー”を有しています。



省エネを楽しみながら自宅で発電したり、太陽や風、水などの自然資源を活用した自立・分散型の再生可能エネルギーを導入するなど、エネルギーの地産地消を目指します。